



紙文書の整理から教材づくりの短縮まで校務の効率化に威力! 神奈川大学附属中・高等学校 小林道夫 様

「神奈川大学附属中・高等学校」（神奈川県横浜市）で情報教育実践を担当する小林道夫教諭は長年『ScanSnap』を愛用している。そんな小林教諭に普段使っている『ScanSnap』の活用方法を聞くとともに、フラッグシップモデル「iX500」と本を開いたまま読み取れるドキュメントスキャナ「SV600」についての評価を伺った。



神奈川大学附属中・高等学校 教諭
小林 道夫 様

1989年より同校の情報教育を担当。第15回東書教育賞受賞（1999年）シンククエスト世界大会の受賞者を日本から送り出すなど、情報教育の実践に熱心に取り組んでいる。NHK 高校講座「社会と情報」番組講師。著書に『情報教育と国際理解』（日本文教出版、2002年）、その他、中学技術・家庭科検定教科書、高校情報科検定教科書など共著多数。

PDF化することでコピーの手間とコストを削減

いつでもスキャンできる魅力

神奈川大学附属中・高等学校は、情報化社会にいち早く対応するため、まだパソコンがめずらしかった1989年から高校の選択科目で「情報」の授業をスタート。情報教育に積極的な学校として知られている。現在はパソコンを「表現する道具」として扱えるよう、生徒たちが主体となったグループワークによる「Webサイトづくり」や「ロボット製作」を大きな柱に据えるなど、ものづくりに重点を置いた情報教育を通して「21世紀型スキル」の向上を図っている。

その中で、同校の情報教育実践を担ってきた小林教諭が『ScanSnap』を使い始めたのはおよそ5年前。「当時、ほとんどの学校ではスキャンが必要な場合は職員室などに設置してある大型の複合機を使っていました。でも、毎回その場所まで移動する手間がかかり使いづらかったのも事実。そこで、いつでも自分のデスクで紙文書をPDF化できる便利さから、私を含めて個人の情報管理用に購入する先生が多かったです」

とりわけ、大量の用紙を一斉にスキャンできることや読み取りスピードの速さは、これまでのスキャナ概念を変えるものだったと評価した。



神奈川大学附属
中・高等学校

溜まっていく書類の整理に活躍

そんな小林教諭が主に利用しているのが、日常的に溜まる一方の校務に関わる紙文書の整理である。「学校はICT化が進んでいるとはいえ、日頃の連絡書類や生徒に配布する資料などまだまだ紙の文化が多く残っています。そのため、気がついたときにサクサクと電子化できる『ScanSnap』を使って、不要なものは処分して整理するようにしています」



情報準備室の小林先生の
デスクに設置されている
「ScanSnap iX500」

また、意外な用途としては、生徒から回収した資料をすぐに返却したいケースだという。「たとえばアンケートを回収した場合、これまでは入力時間がかかるため一度コピーをとって控えをつくっていましたが、しかし『ScanSnap』で読み取ることで、その手間やコピーにかかる無駄なコストが削減できるようになりました」このほかにも、最近流行の子どもたちの学習成果物をデジタル化して蓄積していくデジタルポートフォリオづくりに最適であること。さらに、個人的にはICT教育を推進する立場から原稿を依頼されるケースも多いため、その際の校正作業に活用。赤字を入れた紙をPDFにしてメールで送り返すことで、原稿チェックのやりとりがスムーズにはかどるようになったと語ってくれた。

生徒の関心を引くその日のニュースをタイムリーに紹介

多彩な新機能で使い勝手を向上

続いて、フラッグシップモデル「iX500」を活用した感想を聞くと、「Wi-Fi 経由でパソコンやタブレットへ直接転送が可能になったことで、さらに利用シーンが拡大するのでは」と小林教諭。近い将来、同校でも生徒 1 人 1 台タブレット端末を見据える中で、校務だけでなく協働的な学びを支援するツールとしても期待を込める。「個人的には従来よりもスキャン速度がアップしたことや、読み取り時の紙詰まりを防ぐ機能など、基本性能がより一層向上したことにも大きな魅力を感じます」と率直な意見も。



クイックメニュー

その上で、画面の指示に従うだけで簡単に操作を実行できる「クイックメニュー」を挙げ、「ふだんは Mac を使用しているため、『iPhoto』に保存のアイコンがあって重宝しています。このように、よく使うアプリケーションがアイコンで表示されるので、少ない手順で操作ができることも気に入っています」

「また、読み取ったデータを Word や PowerPoint® に変換できるので、図の入った資料のテキストだけ抜き取って活用するのが便利。コピーをとって切り貼りするよりも編集作業が格段に楽になって、授業準備が効率的になりました」



長年「ScanSnap」を愛用している小林教諭も、「iX500」のスピードに感動

さらに、読み取ったイメージデータをパソコン経由で Dropbox などのクラウドサービスに保存できることに触れ、「インターネットがつながる環境ならどこでもデータを入手できるようになり、使い勝手が飛躍的に向上したと思います。しかも、データ容量を気にせずどんどんスキャンして取り込めるので、ヘビーユーザーにとってはうれしい進化です」と顔をほころばせた。

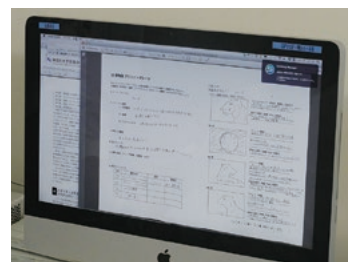
使ってみてわかる「SV600」の良さ

続いて、小林教諭が使い勝手のよさを実感したと認めるのが「SV600」だ。本機種は非接触スキャナのため、A3 サイズまでの新聞や雑誌などを手軽に素早く、次々に読み取れるのが特長。「実際に使ってみて、初めてその良さがわかるというのが率直な感想です。机の上に置いておけば、取りたいときにワンプッシュするだけ。また、原稿を読み取るときだけスペースを空ければいいので邪魔になりません」

なかでも、新聞記事などその日のタイムリーな話題を教室で見せるときに、サッと PDF 化できて重宝しているという。



「SV600」なら雑誌も開いたままワンプッシュでスキャンできる



「ブック補正機能」で歪みなどを補正できる

「どの教科でも、教員は授業の導入部で生徒のモチベーションを上げたいと思うもの。そんなきっかけとなる最新の情報をすぐに画像で見せることができるのが良さです。これが口頭だけで話したり昔の資料を引っ張り出したりしては生徒も興ざめしてしまいますから」と小林教諭。続けて、PDF なので教室の電子黒板に拡大表示すればクラス全員が視認できる点や、生徒の端末に配信できる点など、使いやすいのがよいと話した。

すなわち、教員は何よりも授業でどのように子どもたちを引きつけるかを常に考えているため、こうした興味を湧かせる演出を手間なく、かつ効果的に実現できることが大きな力になるのだ。ほかにも、ある程度の立体物なら読み取りが可能なのもうれしいところと微笑む。たとえば、ロボット授業の「光センサーキット」の組み立てでは、手順ごとにパーツを並べて取り込むことでマニュアルを作成。「電子化して配ることで、そのつど教えなくても生徒が組み立ての手順をしっかりと理解できようになりました」と効果を口にした。

このように、より一層進化を遂げて使い勝手が向上した『ScanSnap』シリーズ。そこには校務や授業で使う紙文書を簡単に電子化できることはもちろん、今までコピーをとっていたものをすべてスキャナに置き換えることでのコストカットや授業準備をスピーディーに変えるなど、新たな付加価値も生んでいるようだ。

「学習情報研究」2014年7月号より

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となりますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。本事例におけるスキャンは、私的使用の範囲が、または、著作権法上問題のない資料等が対象とされています。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月～金曜日 10時～12時、13時～17時(当社休業日除く)
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>